

報道各社への取材の御案内

“世界の報道人 100 人” に選ばれた菊竹六鼓 没後 80 年「記念講演会」

うきは市吉井町出身の菊竹六鼓（きくたけ・ろっこ）は明治 36 年（1903）、福岡日日新聞（西日本新聞の前身）に入社、31 歳で編集長に抜擢され、昭和 7 年（1932）、犬養毅首相が海軍将校によって殺害された 5.15 事件では、軍部の行動を批判するマスコミが皆無に等しいなか、死を覚悟して国への憂いを書き続けた。昭和 12 年（1937）7 月 21 日、逝去。没後、信念を貫いた言論人として「20 世紀の世界の報道人 100 人」に選ばれた。



今回、没後 80 年に当たり、地元のまちづくり団体と市の共催により記念講演会を開催する。会の冒頭、5.15 事件を痛烈に批判した六鼓主筆の論説「敢て国民の覚悟を促す」（昭和 7 年 5 月 17 日付、福岡日日新聞掲載）を輪読する。これは、平成 11 年から平成 18 年まで市内の郷土史会関係者らにより取り組まれた「六鼓を読む会」という六鼓の文章を会の参加者が回し読みする輪読会を参考に行うもので、これまで地元で行われてきた顕彰活動も偲ぶ。

■日時 **7 月 14 日（金）午後 7 時 30 分**から（1 時間予定）

■会場 うきは市生涯学習センター 2 階ホール（うきは市吉井町 983-1）

■記念講演 演題 **「菊竹六鼓と私の記者人生」**

講師 西日本新聞 浮羽支局 支局長 あだち きよし 安達 清志さん

■共催：白壁レディース 21・うきは市・うきは市教育委員会、後援：西日本新聞社

●問い合わせ（一般から）生涯学習課文化財保護係 Tel0943-75-3343 ※無料・予約不要

※報道窓口：うきは市総務課広報係（瀧内：Tel0943-75-4980）



▲「菊竹六鼓記念館」では、六鼓の遺品や記録を後世に伝える（うきは市吉井町 1082-1）



▲5.15 事件で軍部を批判した福岡日日新聞

編集：うきは市総務課広報係（Tel0943-75-4980）係長・瀧内宏治、重富結人（瀧内：携帯 090-7454-6381）

※FAX を手にとられた方は、「うきは市ホームページ」掲載のカラー版を御覧ください→検索 **うきはブランド通信**

2017. 6. 29 発表／“世界の報道人 100 人” に選ばれた菊竹六鼓 没後 80 年「記念講演会」